

(仮称) Mt. Fuji ジビエ加工センター設計業務に係る  
プロポーザル評価基準

富士吉田市

## 1. 最適者決定までの手順

最適者決定に至るまでの手順は表 1-1 に示すとおりである。

表 1-1 最適者決定までの手順

	実施項目	実施内容
①	実施の公告	・本プロポーザル実施要項等関係資料配布。
②	参加申込書の提出	・事務局に持参又は郵送にて申込書を提出。
③	参加資格確認	・事務局において、提出された申込書を基に応募者の参加資格の有無を確認し、技術提案の提出者を選定する。
④	技術提案書受付	・選定された提出者より技術提案書の受付を開始する。
⑤	質疑及び回答	・参加希望者より質疑を受け付け、回答する。
⑥	技術提案書の提出 締切	・事務局は、資格適合者から提出された技術提案書一式を受け付けた後、保管する。
⑦	提案技術審査	・評価委員会は本基準に基づき、技術提案書を評価し、技術評価点を算出する。
⑧	提案価格審査	・評価委員会は、提案者から提出された提案見積書により、価格評価点を算出する。 ・評価委員会は、技術評価点と価格評価点を合算し総合評価点を算定する。
⑨	最適者の決定	・評価委員会は、評価点が最も高い者（最適者）と、次点の者（次点者）を選定する。

## 2. 参加資格確認

参加申込者から提出された参加申請書及び参加資格の確認に必要な書類を基に、参加者が実施要項に示された参加資格要件を満たしているか、事業としての妥当性を有しているのかの審査を行う。確認後は、資格適合者を技術提案書の提出者として選定する。

## 3. 評価基準

### 3.1. 提案技術審査

(1) 参加申込書に記載の実績から、各申込事業者の実績を評価する。

(2) 評価委員会にて技術提案書の内容確認を行う。

上記内容及び配点については、表 3-1 に記載する。

評価点の計算方法は、別紙「審査評価要領」による。

### 3.2. 提案価格審査

提案価格審査は、提案見積書に記載された提案価格が提案見積上限額内にあることの確認を行い、提案価格を点数化する。点数化の方法は、以下のとおりとする。

価格評価点 = 最低提案価格 / 提案価格 × 配点

※点数化にあたっては、小数点第 2 位を四捨五入する。価格評価点の配点は 5 点とする。

### 3.3. 総合評価点算定

総合評価点は、3. 1の技術評価点に、3. 2の価格評価点を加えて算定し、最適者を選定する。総合評価点は100点満点とする。

なお、総合評価点と同点の場合には、技術評価点が高い者を最適者として選定し、技術評価点も同点の場合には、当該者によるくじにより最適者を選定する。

総合評価点（100点満点）＝技術評価点（95点）＋価格評価点（5点）

表 3-1 参加申込書及び技術提案書の評価基準

評価項目	評価の着目点			配点 (評価のウェイト)		
	判断基準			小計		
参加申込書	(1) 事業所評価	A. 設計実績 ① 面積 300 m <sup>2</sup> 以上かつ類似施設 2件 ② 面積 300 m <sup>2</sup> 以上かつ類似施設 1件 ③ 面積 300 m <sup>2</sup> 以上 2件 ④ 面積 300 m <sup>2</sup> 以上 1件			5.0	5.0 (5%)
	(2) 技術者の評価	A. 配置技術者の資格 各担当分野について、資格の内容を資格評価法により評価する。  B. 管理技術者の実績 ●設計面積 300 m <sup>2</sup> 以上かつ類似施設の実績を評価する。 ① 面積 300 m <sup>2</sup> 以上かつ類似施設 2件 ② 面積 300 m <sup>2</sup> 以上かつ類似施設 1件 ③ 面積 300 m <sup>2</sup> 以上 2件 ④ 面積 300 m <sup>2</sup> 以上 1件 ●実績の立場を次の順で評価する。 ① 管理技術者又はこれに準ずる立場 ② 主任担当技術者又はこれに準ずる立場 ③ 担当技術者又はこれに準ずる立場	主任担当技術者	総合 1.0 構造 1.0 電気 1.0 機械 1.0 造成・外構 1.0	5.0	10.0 (10%)
技術提案書	(3) 技術提案の評価	A. 要求図書	配置図	提案的的確性（仕様書記載の機能等を満たしているか等）、獨創性（集客施設としての工夫がされているか等）、実現性（提案内容が理論的に裏付けされており、説得力のある提案となっているか等）を考慮して総合的に評価する。	15.0	50.0 (50%)
		平面図	15.0			
		断面図・立面図	5.0			
		外観イメージ図	15.0			
	B. 評価ポイント 1から4	1. 設計業務上の考え方	提案的的確性（与条件との整合性がとれているか等）、獨創性（工学的見地に基づく獨創的な提案がされているか等）、実現性（提案内容が理論的に裏付けされており、説得力のある提案となっているか等）を考慮して総合的に評価する。	10.0	30.0 (30%)	
		2. 景観、眺望と調和したデザイン・動線計画		10.0		
		3. 環境への配慮		5.0		
		4. 工事費用の縮減		5.0		